

審議経過報告では、舞台芸術の振興にあたって、実演芸術家等の役割を重視し、その育成と活用に取り組む必要性について述べられていますが、この審議を踏まえ、分野ごとの特性や状況の違い、現状に即した対応が、すみやかに取り組まれていくことを願っています。

(1) 卓越した実演芸術家等の育成について

卓越した実演芸術家を育成するための課題は、分野によって状況が異なるうえに期待することも人によって少しずつ異なっています。これまで、国の人材育成に関する施策は分野共通の要項にもとづいて行われ、かつ支援事業に対する応募者の自主的な計画の採択という形で進められてきたため、大局的な見地から、強化したり取組みの不足を補ったりすることが難しい、当事者が実現しやすい範囲に留まってしまふ、という欠点がありました。今回、分野ごとの違いが議論され、重視すべき方向性が明文化されたことは評価いたします。

「i)フェローシップ制度の充実」「ii)文化芸術団体における人材育成への支援」で触れられているように、現行の施策については、分野ごとの現状に照らし合わせ、早急に改善されていくことが必要です。専門家育成は、関与する人々に高い専門性が必要で、かつ関係者の数が少なく、広く議論がなされることが少ないという傾向がありますが、今後は、支援施策が目指している方向性、優先課題、期待されること、審査・選択の基準などについて、分野ごとに明らかにして、施策の策定や支援対象の選択に関与する人はもちろんのこと、分野ごとに情報が共有され、それぞれの実状に合った人材育成事業が具体的に計画され取り組まれることを望みます。

「iii)新国立劇場に求められる役割と取組」では、新国立劇場の研修事業の充実への期待が書かれていますが、研修所のスタッフや講師の工夫で対応できることには限りがあり、「人材育成の殿堂」を目指しての抜本的な強化は、研修者が研修に専念できる環境の整備、講師陣・場の拡充が不可欠です。すみやかに、①研修の一層の充実に向けての計画の策定、②講師の増員や処遇改善及び研修所の環境改善、③それらを可能にする予算増の措置がとられることが必要だと考えます。

なお、研修所の成果の発信としては、研修修了者の発表のみならず、人材育成の実践や方法論の研究と開発の蓄積とその情報発信も重要と考えます。人材育成に当たるほかの組織、地域の専門家らとの情報共有、ネットワークの構築も含め拡充計画の中に盛り込まれることが望ましいと考えます。

「iv)学校教育における専門人材育成の推進」では、芸術系大学の人材育成への期待が述べられていますが、とくに鑑賞機会が少ない首都圏域以外の地域では、大学が地域に貢献することへの期待が大きいのと思われます。芸術団体や公立文化施設と大学などが共同で人材育成に取り組むことを促進する必要があると考えます。

(2) 実演芸術家等の積極的な活用

方策のポイントで、「技能の高い実演芸術家等が行う意欲的な取組などに対して公演の創作から実施までの一体的な支援を検討する」とありますが、芸術団体や公立文化施設等への支援システムの改善を早急に行い、実演芸術家等が仕事に打ち込める環境を整備していただきたい。

また、「地域において劇場等を中心とした芸術拠点の形成を促進するための支援を充実させる」とありますが、十分な予算措置はもちろんのこと、「劇場法（仮称）」を導入するなどして国が地域と協働して公立文化施設の取組みを促進する方向性を法的に明確にし、文化施設に実演芸術家や芸術団体が恒常的にいる状況を各地に整備し、地域の教育との連携をはじめとして、実演芸術家等が活躍できる場を広げ、地域の活性化、舞台芸術の振興にプラスになっていく戦略的な政策を期待します。

文化庁が実施した芸術団体、芸術系大学に対するアンケートの回答から、実演芸術家の育成及び活用について今後課題と思われることとして「実演芸術家として活躍するための公演機会の拡大」「子供の頃から芸術に触れる機会を増やすこと」という選択肢が、芸術団体、大学の双方の回答で高い回答率となっています。人材育成の観点だけではなく、公演機会を拡大し、子どもの頃から芸術に触れられる機会を拡充するためにも、地域の芸術拠点の活性化は効果的な政策であり非常に重要です。

(3) 実演芸術家等の育成及び活用に向けた環境整備

実演芸術家等が安心して創造に打ち込める環境づくり、怪我などへの補償を含む労働条件等の改善は、人材育成に大変重要なことです。国の事業、支援事業を含め契約内容の見直しなど実効ある方策が進められることを切に願います。

また、「人材育成」の観点からだけでなく、国民の芸術への参加機会の拡充、とりわけ子どもたちの芸術活動の拡充や、地域間に顕著にみられる鑑賞・体験の機会の格差是正、戦略的支援など、第二次基本方針で掲げられているほかの重点事項にかかわる取組みが不可欠です。施策の関連に留意し、舞台芸術振興全体を視野にいれつつ、着実に人材育成が図られていくよう施策の改善と充実を望みます。